

# マスク弾ませ笑顔

新型コロナ・1カ月半ぶり

## 十勝の学校 再スタート

新型コロナウイルスの感染拡大で臨時休校していた十勝管内の公立学校が1日、再開した。引き続き感染防止に注意を払う中、約1カ月半ぶりに全学年の児童・生徒がそろい、気持ちも新たに学校生活を再スタートさせた。

帯広翔陽中学校（上田和聡校長、生徒485人）では、午前8時からマスク姿の生徒が続々と校門をくぐった。分散登校中はクラスを2グループに分けて登校したため、全員がそろ

のは4月17日以来。

3年2組の教室ではクラスメートとの再会を喜ぶ笑い声があふいた。豊川仁彩（にき）さんは休校中、友達と手紙で連絡を取り続けたといい、「家にずっといるのはつらい。夏休みに登校しないといけないのは残念だけど、学校が始まったのはうれしい」と笑顔だった。学校では感染防止策として、教室のドアを開放、机の間隔をできるだけ広げて授業に臨む。上田校長は「先行きが見えず不安もあるが、感染防止に最大限努める」と話していた。

市教委は休校期間中の授業時間を確保するため、小中学校は夏休みに10日間、冬休みには6日間の登校日を設けることにしている。

（高田晃太郎）

### 児童見守り

十勝町内では1日、同町の平田建設（長谷川雅毅社長）の社員が通学路に立ち、登校する十勝小の児童に交通安全を呼び掛けた。

同小で4月に予定していた交通安全の啓蒙（けいもう）活動が中止となり、改めて新1年生らに交通ルールを学んでもらい、安全に通学してもらおうと企画した。

同日は午前7時すぎ、社員約30人がそろいのベスト、マスクを着用して参加

同校周辺の交差点や歩道4カ所に立ち、児童に「おはよう」と声掛けし、誘導した。長谷川社長は「子どもたちの元気な姿を見られて何より」と話していた。

（小縣大輝）



建設会社の社員が見守る中、登校する十勝小の児童